

療費助成』として、6歳の幼

児までの医療費の助成を行ってまいりましたが、今年度から医療費助成の対象を小学校卒業までに引き伸ばし、『子ども医療費助成』としまして、子どもたちが病気になったとき、治療費が与える家計への負担を気にせず気軽に病院で受診できる環境を整えております。

次に、近年は、海外旅行や留学等される町民の方も増える傾向にありますが、海外に行かれる際は、必ずパスポートを取得しなければならぬことから、これまでは、県の出先機関まで行き、申請手続きをしておりますが、今年度から、パスポートの交付を受けられる町民の方の負担を軽減するために、役場の住民環境課で手続きできるように

いたしました。

また、大崎町は、町民の皆様のご協力のおかげで、ゴミのリサイクル率5年連続日本一を達成しており、その関係で、独立行政法人国際協力機構（JICA）の補助を受け、インドネシアデポック市の廃棄物の減量化及び環境協力を支援する草の根技術協力事業に取り組み、ゴミのリサイクル指導を通じた国際交流を進めております。

次に、農業関係では、今年度から本格的に導入いたしましたそばの新品種『さちいずみ』の栽培に取り組み、飲食店の方々の協力を得て、さちいずみで打った『おおさきそば』を開発いたしましたので、大崎町の名物のひとつとしてこれから多くの方々に大崎のおいしいそばを食していただ

けるものと思っております。

また、都市住民や修学旅行生が大崎町の豊かな自然に触れることや、農産加工体験や農業体験等を行う交流事業として『グリーンツーリズム』をスタートしております。

さらに、大崎名産のひとつでありますマンゴーに加えまして、生産者のご苦労のおかげで、昨年から、貴重な熱帯果実である『アテモヤ』の出荷も始まりました。この果物は、森のアイスクリームとも言われるくらいソフトで甘い果物ですので、これからマンゴーに続く大崎の名産になることと思っております。

さて、大崎町に関する国の事業を見ても、昨年4月に念願でありました野方インターチェンジの設置が正式に決定されましたので、

これにより、生活の利便性や農産物をはじめとした物流が迅速に行われるようになり、開通後は大崎町の浮揚に大きく貢献できるものと大いに期待しております。

また、県立有明高校の統合が正式決定され、その跡地の活用策が心配されましたが、高レベルなトレーニングセンターを建設するとの知らせの発表がありましたことから、高校の灯が消えることは非常に名残惜しく思います。が、トレーニングセンターの建設が実現することにより、新たな地域活性ができるものと期待しております。

国においても、政策の一新等、山積する課題に直面しておりますが、本町を取り巻く環境も依然として厳しいものがございます。私はいかなる

環境の中にあっても、大崎町で暮らす人々が安心して暮らせる地域社会の構築と、将来を担う子どもたちが安心して暮らせる未来、そして地域の人々の心の拠り所となる誇りある郷土を目指すとともに、『豊かな自然が宝物 みんなで紡ぐ結いのまち』の創造に向け、職員とともに今後も更なる努力を重ねてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

巳年は、『植物が成長し、次の生命が作られ始める年』との解釈もあることから、この一年が、皆様に新しい希望が生まれ、素晴らしい年になりますことを祈念し、年頭のあいさついたします。

大崎町長 東 靖 弘